

主筆 牧野富太郎
植物研究雜誌

第三卷 第十二號

昭和元年十二月三十一日
 發行所 東京 津村研究所

○『益軒全集』ノ粗漏

牧野富太郎

明治四十三年ニ東京ノ隆文館デ益軒會編纂ノ『益軒全集』ガ出版セラレ益軒貝原篤信先生ノ全著書ガ之レニ收メラレ同先生ノ書ヲ讀ム人々ニ取ツテハ頗ル便利ナコト、ナリ學界ノ爲メ又一般世間ノ爲メニ誠ニ喜バシイコトデアルガ私ハ此『全集』ニ對シテ少々不満足ヲ感ズル點ガアルカラ此處ニ其レヲ述ベテ見ル

此『益軒全集』ノ卷ノ六ニ『大和本草』ガ收載セラレテアル此『大和本草』(始メハ其題簽ハ『大和本草綱目』デアッタ後ニハ普通ニ『大和本草』トナッタガ偶ニハ再ビ『大和本草綱目』トシタモノモアル然シ内題ハ始メ『大倭本草』トアリ次ニ『大和本草』トナツテ居ル、コンナ事ハ『益軒全集』ニハ書イテナイ)ハ有名且ツ有益ナ書デ我邦ノ植物ヲ研究スル人々ハ一度ハ必ズ眼ヲ通スベキ大切ナ一典籍デアル、此『大和本草』ノ文章ハ原ト片かな交リデアルガ其レヲ『全集』デハ平がな交リノモノトシタ(尙ホ其上餘計ナ句點マデガ施シテアル)ソコデ其處此處ニ不都合ナ點ガ生ジタノデ少クモ『全集』ニ在ル『大和本草』ノ植物名ハ信用ノ措ケナイモノトナツテシマッタ故ニ此『全集』デ覺エシ植物名ニハ頗ル危險性ヲ伴フテ居ルト言ヘル、左ニ其例ヲ舉ゲル

●原本

ヲカカウホ子

をかかうほ子

……ヲカカウホ子ノ子ハかなデアル

今日デハ一般ニネノ字ヲ用ウルカラ編者ハ之レヲかなト思ハズ子ノ字ト思ッタデアラウ故ニをかかうほねト

●全集

黄蘗 キスゲ

黄蘗 やすび

海藻 ナノリ
ホダヘラ

海藻 なのみ
ねたはら

堇菜 ノセリ

荳菜 くせり

憶 アハキ
ヲキ

憶 あはき
あてき

十姉妹 ヘコツツギ
ヤマウツギ

十姉妹 うつぎ
たぎ

上ノ様ナ誤リガアル尙ホ精シク檢閲シタナラマダ他ニモコンナ例ガ見ツカリ又文章ノ中ニモ之レニ類シタ誤リ
ガアラウト思フ、此『益軒全集』デ其植物名ヲ學ブ人ハなのりそノ一名ヲねたはらト覺エあはきノ一名ヲあて

スベキモノガをかかうほ子トナツテ意味ヲナサヌコトニナツテ居ル
キスゲノキガ後摺リノ本デハ墨付キノ惡イモノガ多イ爲メソレデキヲ
ヤト見誤ッテやすげトシタ譯デアアル
ホタハラノホヲネト見誤ツタ結果コレガねたはらトナツタノデアアル『大
和本草』ニハねハ何時モチデ今日ノヤウニネノ字ノ使ッテナイコトハ
先刻御承知ノ筈デハナイカ
ノセリノノヲ瞥見シテクト見違ヒヲシテソレガくせりトナツタデアラ
ウ又序ニ言フガ堇菜ノ堇ガ原本デ彫刻惡ク變ナ字體ニナツテ居ル爲メ
判斷ヲ誤リ之レヲ想像デ荳菜トシテシマツテ居ル
アヲキノヲヲ板木ノ磨滅具合デデアルト想像シソレデあてきトナッ
テ居ル若シヤハリ片かなデアテキトナツテ居レバ其字面デ多分アヲキ
ノ間違ヒデアラウ位ノ想像ガ付クケレドモ之レガあてきトナツテ居テ
ハ何トモ考ヘヤウガナイ
ハコ子ウツギタルベキモノヲ單ニうづぎトナシヤマウツギトアルベキ
モノヲたぎトシテ誠ニ不得要領ナ名ニナツテ居ル是レハ名稱ノ上ノ方
ノ板木ガ磨滅シテ居ル本ヲ本トシテコンナ不徹底ナコトヲシタコトガ
判カル(次頁ノ寫眞ヲ參照)

十姊妹^{シテウツギ} 花開小而一^{ハナ}
 紫粉白數色深淺斑^{ムラサキコ}
 錦帶花^{キンタイ}三才圖繪^{サンサイトウゲ}
 紅而嬌植之屏籬^{ベニカサネ}
 山ウツ木 四月花ヲ開^{ヤマウツキ}
 ナリ花紅白ナリ京^{ナリハナ}
 ニ詠セシ卵ノ花ニハ非^{ニウツ}
 類ナルヘシ^{ルイ}
 聚^{ツミ}八仙 京畿ニテカイ^{ハクセン}
 中ニ多シ葉ノ形粉南^{ナカニオホシエハノカタクコ}

『大和本草綱目』即チ『大和本草』卷ノ十二、第十六葉裏ノ上部

板木ノ磨滅スセモノ、即チ前へ刷リノモノ

十姊妹^{シテウツギ} 花開小而一^{ハナ}
 紫粉白數色深淺斑^{ムラサキコ}
 錦帶花^{キンタイ}三才圖繪^{サンサイトウゲ}
 紅而嬌植之屏籬^{ベニカサネ}
 山ウツ木 四月花ヲ開^{ヤマウツキ}
 ナリ花紅白ナリ京^{ナリハナ}
 ニ詠セシ卵ノ花ニハ非^{ニウツ}
 類ナルヘシ^{ルイ}
 八仙 京畿ニテカイ^{ハクセン}
 中ニ多シ葉ノ形粉南^{ナカニオホシエハノカタクコ}

同 上

板木ノ磨滅シタモノ、即チ後ト刷リノモノ

ミト覺エル譯デ其人
 ヲ誤ルコトガ甚ダシ
 イ、是レハ畢竟原本
 ノ片かなヲ入ラヌ御
 せつかいヲシテ平ガ
 なニシタ結果デア
 ト共ニ又其原本トシ
 テ刷リノ鮮明ナ即チ
 初刷リノ善本ヲ用キ
 ナカッタ結果デア
 ル、原本ガ片かなナ
 ラ後更ニ印刷スル時
 ハヤハリ其通リニシ
 テヨイ譯デ何モワザ
 ワザ面倒クサク平ガ
 なニシナクテモヨイ
 近頃ノ人ハ唯何モカ
 モ平ガナニ書キタガ
 ル癖ガアツテソレデ

遂ニコンナ失態ヲ仕出來カシテ居ル、片かなヲワザワザ平がなニ直スノダカラ多クノ勞力モ入レバ注意モ入ル其ンナ事ヲシテ迄モ原本ト違ヘサスル必要ハ少シモナイ、コンナ入ラヌお世話ヲ焼クカラソレデ間違モ出來從テ其書ノ信用モ價值モ失墜スル、ツマラヌ事ダ、コンナ本ハトテモ恐ロシクテ引用ナドハ出來ヤシナイ、又コンナ事ガアルカラ書中何レノ部モ原本ト違ヒハセヌカト危ブマレいざト云フ場合ハドウシテモ其原本ヲ見ナケレバ承知ガ出來ナクナリ不便ナコト此上モナイ、又原本ノ通り片かなナレバ前ニモチヨット記シタ通り假令ヲガテニナリホガネニナツテ居ッテモ字體ガ似テ居ルカラ何トカ考ヘヤウモアルガガテニナリホガネニナツテ居テハサッパリ推量ノ緒ガ立タヌ、其レ故コンナ全集ナド云フヤウナル活版本ヲ複製スル人々ハ大ニ猛省スベキ事柄デ實ハ此ノ如キモノハ皆宜シク reproduction in facsimile ニスベキデアル、況テヤ一般校合ノ粗漏ナ常習アル今日ノ我邦ニ於テ乎デアル、又近來ハ西洋かぶれガシテヤタラニ句點ヲ打チタガル癖ガアルガかな交リノ日本文ニハソソナニ句點ヲ付ケナクテモ文意ガ能ク解カルカラ無暗ニ之レヲ施サナクテモ事ガ足リル、今日新聞紙ノ文章ニハ句點ヲ切ラヌモノガ多イガ誰レガ讀ンデモ容易ニ其文意ガ解カルデハナイカ、歐文ヤ漢文トハ違ヒ邦文ハ其書キ方ガ順々ニナツテ居リ其意味ヲ表ハス字ガ逆戻リナシニ列ネテアルカラ讀ミ下セバ句點ガ無クトモ能ク解ルヤウニナツテ居ル其レ故煩ハシク其レニ之レヲ打ツ必要ハ少シモナイ、『大和本草』ノ文章ニハ原ト句點ハナイガ『全集』ニハ之ヲワザワザ施シテアル、事ニヨルト其句ノ切り様デ原文ノ意味ヲ間違ヘテ解スルコトガナイトモ限ラナク又之レアルガ爲メニ徒ニ行數ガ延ビ從テ紙數モ増シテ誠ニ不經濟至極デアル、ツレ故コンナ場合即チ原本ニ句點ノ無イ場合ニハ強テ之レヲ施ス必要ハナイ、此ヤウナ見地カラ私ノ此『植物研究雜誌』ノ文章ニハ御覽ノ通り必要以外ニハ句點ガ施シテナイガマダ讀者諸君カラ君ノ雜誌ノ文章ニハ句點ガナイカラ讀ンデ解ラヌトイフヤウナ苦情ヲ持込マレタコトハ一度モナイ

序ニ曰フガ私ハ比較研究ノ爲メニ『大和本草』ノ書ヲ數部蒐メテ見タガ幸ニ其中ニ一部印刷ノ良好ナモノヲ手

ニ入レタ是レハ始メノ内ニ刷ッタモノデ板木ニ缺損シタ處ナドモナク文字モ頗ル鮮明デアアル即チ前頁ノ上方ニ掲ゲタモノガソレデアアル之レヲ其下ニ掲ゲタモノト比ブレバ其優劣ガ直グ分ルガ世間ニハ此下ノ様ナ本ガ多イ『益軒全集』ノ原本トシテコンナ本ヲ用キタカラ尙更ラ誤謬ガ生ジタ譯デアアルコンナ堂々タル『全集』ニ原本トシテ使フナラモット吟味シテ良キ本ヲ用キタラヨカッタラウニ惜イコトヲシタモノデアアル、『大和本草』ハ永イ年ノ間澤山ニ印刷シテ世ニ出シタモノト見エ後ニハ板木ガ處々惡クナツテ居リ且ツ其版元ノ書肆モ名ガ異ツテ居ル、寶永六巳丑歲仲秋吉祥日、皇都書林永田調兵衛トアルモノガ最初デ中ニハ此年號ヲ其マ、ニ置イテ其下ニ京島丸通二條下ル町小野善助藏版トシタモノモアルガ其刷リノ具合又製本ノ様子カラ見テ是レハズツト後ニ其板木ヲ他カラ買ヒ受ケ若クハ譲リ受ケテ始メテ自家デ出版シタヤウニ見セ掛ケタモノト想像スルコトガ出來ル、此等ノ事ニ就テハ他日折ヲ見テ尙精シク述ベテ見タイト思ッテ居ル

○薔 軒 獨 語 (其十一)

薔 軒 朝 比 奈 泰 彦

○ばらいろひげとけとうろひげとけ

此ニツノ地衣ハ何レモなるをがせ *Usnea* 屬ノモノデばらいろひげとけトハ *Usnea roseola* WAIN. (T. B. M. Vol. XXXV. No. 411, p. 46.)ノ新和名デアアル、主トシテ樹皮ニ着生シ基部ヨリ數枝ヲ分チ其枝振りハ普通ノ無子器ノものリ *Usnea florida* v. *comosa* Broder. ニヨク似テ表面ニ粉芽狀トナレル顆粒ヲ密布シテ居ルガ枝カラ直角ニ出ル小刺枝ヲ有ツテ居ナイ又小刀ヲ以テ皮層ヲ搔筆ルト淡紫色 (*Roseus*) ノ髓層ガ現ハレルノガ特徴デア
ル、此地衣ハ從來吾國デ誰モ氣ガ付カナカッタガ故安田篤君ガ送ッタ仙臺産ノ一標本ニヨリ WAINIO 氏ガ獨立